

## 医療被ばく研究情報ネットワーク 第16回総会 議事概要

1. 日時 : 2023年6月10日(月) 14:00~15:30

2. 場所 : Teams を利用した Web 会議

3. 出席者(敬称略):

### 団体会員

医療放射線防護連絡協議会(出席者なし)

日本医学物理士会(木藤哲史)

日本医学物理学会(古場裕介)

日本医学放射線学会(平木隆夫)

日本インターベンショナルラジオロジー(赤羽正章)

日本核医学学会(馬場眞吾)

日本核医学技術学会(石黒雅伸)

日本医療画像システム工業会(稲葉潔、長東澄也、山内 宏祥)

日本歯科放射線学会(西川慶一、大高祐聖)

日本消化器内視鏡学会(竹中完)

日本小児心臓 CT アライアンス(竹井泰孝)

日本小児放射線学会(田波穰)

日本診療放射線技師会(江藤芳浩、鈴木賢昭)

日本整形外科学会(出席者なし)

日本乳がん検診精度管理中央機構(斎政廣)

日本脳神経血管内治療学会(盛武敬)

日本放射線影響学会(田代聡)

日本放射線技術学会(五十嵐隆元)

日本放射線腫瘍学会(出席者なし)

日本保健物理学会(小野孝二)

### 個人会員:

代表 細野眞、代表代行 神田玲子

### オブザーバ:

厚生労働省(山田貴志)、他26名

### 新規加入希望団体:

日本消化器がん検診学会(見本真一)

日本CT検診学会(中山富雄、村松禎久)

日本がん検診・診断学会(土田敬明)

事務局:

QST(赤羽、神田、古場、張)

#### 4. 議題

- (1) 前回会合の議事概要の紹介
- (2) 団体会員の新規加入について(審議事項)
- (3) DRL-WG の活動状況について(報告事項)
- (4) J-RIME の HP の移設について(報告事項)
- (5) 会員の活動報告(報告事項)
- (6) その他

#### 5. 配布資料

- 資料1 J-RIME 第 15 回総会議事概要
- 資料2-1 J-RIME 団体会員一覧
- 資料2-2 日本消化器がん検診学会\_J-RIME 団体会員申請書
- 資料3 J-RIME\_HP の移設について
- 資料4-1 医療放射線防護連絡協議会からの報告資料
- 資料4-2 日本医学物理学会からの報告資料
- 資料4-3 日本医学放射線学会からの報告資料
- 資料4-4 日本画像医療システム工業会からの報告資料
- 資料4-5 日本歯科放射線学会からの報告資料
- 資料4-6 日本診療放射線技師会からの報告資料
- 資料4-7 日本乳がん検診精度管理中央機構からの報告資料
- 資料4-8 日本脳神経血管内治療学会からの報告資料
- 資料4-9 日本放射線技術学会からの報告資料
- 資料4-10 日本保健物理学会からの報告資料
- 資料5 プレス発表資料 おきなわ津梁ネットワークに線量管理機能追加へ

#### 6. 議事

- ・ 細野代表より開会の挨拶が行われた。厚生労働省からの出席されている以下の先生の紹介があり、挨拶が行われた。

○厚生労働省 医政局 地域医療計画課

医療安全推進・医務指導室

医療放射線管理専門官

## 山田 貴志 先生

### (1) 議題1 前回会合の議事概要の紹介

- ・ 第5回総会(2023年6月8日開催)の議事概要の内容が紹介された。

### (2) 議題2 団体会員の新規加入について(審議事項)

- ・ 日本消化器がん検診学会、日本CT検診学会、日本がん検診・診断学会の3団体より新規加入の意向があり、各団体の代表より挨拶が行われた。
- ・ 日本消化器がん検診学会の見本氏より挨拶と新規加入の意向が示された。
- ・ 日本CT検診学会の中山氏より挨拶と新規加入の意向が示された。
- ・ 日本がん検診・診断学会の土田氏より挨拶と新規加入の意向が示された。
- ・ 新規加入の団体について賛成多数により承認された。

### (3) 議題3 DRL-WG の活動状況について

- ・ DRL-WG 主査の赤羽氏より活動状況について報告が行われた。
- ・ 1年後の改訂に向けて各モダリティのプロジェクトチームが活動しており、線量調査のアンケート内容を具体化しているところ。
- ・ 今回は無理のない範囲で複数のモダリティのアンケートを統合して実施する。
- ・ 日本医学放射線学会の予算により、事務的な作業を業者に委託し、継続的に行ってきたい。

### (4) 議題4 J-RIME の HP の移設について(報告事項)

- ・ 事務局より資料3を用いて J-RIME の HP の移設について説明が行われた。
- ・ 変更後の URL <https://j-rime.qst.go.jp/>となる。
- ・ URL 変更に伴い、診断参考レベルの報告資料の URL も変更となっているので、論文引用の際には注意することが伝えられた。

### (5) 会員の活動報告(報告事項)

- ・ 医療放射線防護連絡協議会(説明者:なし)(資料4-1)
  - 報告者が出席していなかったため、資料4-1の確認により報告とした。
- ・ 日本医学物理学会(説明者:古場氏)(資料4-2)
  - JSMP127 における放射線防護委員会企画として医療従事者の被ばく低減のためのマネジメントシステムのテーマのシンポジウムを開催した。
  - 2023年11月16日に核医学学会・核医学技術学会との合同で ICRP2023 サテライ

トイベントとして JSMP-JSNMT-JSNM 合同シンポジウム、招待講演 3 件を開催した。

- 日本医学物理士会(説明者:木藤氏)
  - 放射線防護に関するセミナーをウェブで開催した。4 月から 5 月の半ばぐらいにかけてオンデマンド配信し、120 名程度の参加があった。
  - 10 月に診断参考レベルに関する特別セミナーを開催する予定
  - 昨年度、治療計画CTの被ばく線量に関する論文は発行したが、その続きとしてIGRT機器の被ばく線量に関する論文を執筆中である。
- 日本医学放射線学会(説明者:平木氏)(資料4-3)
  - 広島大学の粟井氏の後任として、平木氏が日本医学放射線学会からの代表となった。
  - JRS 会員向けの「診療用放射線の安全利用に関する研修ビデオ」の配布を行った。
  - 日本医学放射線学会での教育講演・シンポジウムの実施としてに放射線防護関連の教育講演を計 2 回実施した
  - DRL's 2025 に向けての活動すべてのプロジェクトチームに 2 名ずつ委員を派遣した。また、調査費用の援助を行うことを理事会で決定した
- 日本 IVR 学会(説明者:赤羽氏)
  - この一年は特別な行事はなかった。
  - 学会に寄せられる質問への回答などを通じて啓発活動に努める。
- 日本核医学会(説明者:馬場氏)
  - 昨年 11 月に学会総会を大阪で開催した。
  - 春季大会ではオンライン会合で各種の研究会を開催した。
- 日本核医学技術学会(説明者:石黒氏)
  - 医学物理学会、核医学会と合同シンポジウムを開催した。
  - 核医学会との共同の春季大会にて核医学領域における医療放射線の安全利用についての講演に参加した。
- 日本医療画像システム工業会(説明者:長束氏)(資料4-4)
  - 資料4-4を用いて放射線治療装置・核医学装置・放射線線量計に関係する国内外規格の動向について報告が行われた。
- 日本歯科放射線学会(説明者:西川氏)(資料4-5)
  - 2023 年 4 月に公開した「携帯型口内法X線装置による手持ち撮影のためのガイドライン 2023 年改定版」の内容を周知するために学会発表を行った。
  - 日本画像医療システム工業会標準化委員会 SC-2206 の委員として、JIS 原案の作成に参画した。

- 日本消化器内視鏡学会(説明者:竹中氏)
  - 学会員全員で内視鏡用のアンケート調査を行った。回答率は8%で3000~4000人のデータを得ることができた。
  - 結果はやはり被ばく対策に対する意識はまだ低いものがあった。学会で周知しながら改善に向き合っていく。
  - 年1回の総会にてはじめて放射線被ばくに関するセッションが行われた。
  - 理事長にJ-RIMEの正式加入についての確認をおこなっている。
- 日本小児心臓CTアライアンス(説明者:竹井氏)
  - 4月より代表を西井氏より竹井氏に変更となった
  - 小児心臓CTのDRL作成にはJSRTの小児CT班と共同で活動する。
  - 計396施設にまもなくアンケートを送付する予定。
- 日本小児放射線学会(説明者:田波氏)
  - 日本小児放射線学会は放射線科医だけでなく、小児科医と小児外科医がそれぞれ1/3を占めていて、ほとんどの方が被ばくに関して周知が徹底されている。
- 日本診療放射線技師会(説明者:江藤氏)(資料4-6)
  - 診療放射線技師の業務拡大に伴う統一講習会および告示研修の開催
  - 第39回日本診療放射線技師学術大会を熊本県で開催した。
  - コロナの影響で2年ほど審査をストップしていた医療被ばく低減施設認定更新審査と新規審査を試験的に再開した。
  - 放射線被ばく相談に関する事業として49件の相談に対応した。
- 日本整形外科学会(説明者:出席なし)
  - 説明者が出席していなかったため報告なし
- 日本乳がん検診精管理中央機構(説明者:齋氏)(資料4-7)
  - 令和5年度のマンモグラフィ施設・画像評価について報告が行われた。
  - 評価台数は698台でデジタルシステムが100%でそのなかでDRシステムが90%であった。
  - 施設認定率は82%であった。
  - 平均乳腺線量の分布は昨年度とほぼ同様であり、平均値は1.45mGy、95パーセントイル値は2.10mGyであった。
  - DRL2020の時の分布と比較すると全体的に低い線量に移行している。
- 日本脳神経内治療学会(説明者:盛武氏)(資料4-8)
  - 学会員らの被ばく防護への関心を高め効果的な対策を図るため、昨年の学術集会において、2つの防護セミナーとシンポジウムを開催した。
  - 防護セミナーでは医療従事者の妊娠と被ばくについての講演をおこない、シンポジ

ウムでは脳血管内治療における患者の被ばく管理について報告が行われた。

- ・ 日本放射線影響学会(説明者:田代氏)
  - 昨年度4月から10月にかけて「ICRP 次期主報告ウェビナー」を4回にわたって開催し、879名と多く方が参加された。
  - ICRP2023 のサテライトシンポジウムを放射線影響学会第66回大会の中で開催した。
- ・ 日本放射線技術学会(説明者:五十嵐氏)(資料4-9)
  - 秋季学術大会と春のJRCの中で多くの防護関連の企画が行われた。
  - 放射線防護フォーラムにおいて一般撮影の線量管理における面積線量計の活用について議論を行った。一般撮影のDRLに面積線量計は十分使えるということで、DRL-WGの一般撮影PTの大野PTリーダーにも伝えた。
  - ICRP の国際シンポジウムを日本診療放射線技師会と共同開催し、骨盤撮影の生殖腺シールドについて議論を行った。
- ・ 日本放射線腫瘍学会(説明者:出席なし)
  - 説明者が出席していなかったため報告なし
- ・ 日本保健物理学会(説明者:小野氏)(資料4-10)
  - 昨年度第56回研究発表会をグランドニッコー東京台場ホテルで開催した。
  - 臨時委員会にて医療被ばく国民線量評価委員会を立ち上げ、中間報告を取りまとめている。
  - 6月28日にウェブセミナーとして医療被ばくのシンポジウムを開催する。

## (6)その他

- i. QSTの医療被ばくデータ収集に関する活動紹介 資料5  
古場氏よりQSTの医療被ばくデータ収集に関する活動として、プレス発表「おきなわ津梁ネットワークに線量管理機能追加へ」について紹介が行われた。
  - ii. ICRP2023 の開催報告  
神田氏よりスライドを用いてICRP2023 の開催報告が行われた。
- ・ 厚労省山田氏より本総会についての総括的コメントが行われた。また、日本診療放射線技師会の報告の中での医療被ばく低減施設認定が中止となっていた点について昨年コメントしていたが、今年度再開されたということで感謝の意が述べられた。
  - ・ 山田氏よりこの1年で小児股関節撮影について何度か問い合わせがあったが、放射線技術学会にてガイドラインなどが作成される動きについて状況を確認したいと述べられた。

- ・ 五十嵐氏より以下の説明が行われた
  - 日本放射線技術学会の五十嵐氏より、2022 年の後半に提言を作成した。また、患者のご家族に向けた FAQ を作成した。
  - 日本医学放射線学会、放射線専門委員会、日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会の 4 団体協議会有り、その中で小児股間節撮影に関する声明を出す予定で話し合いを進めている。4 団体協議会ではシールドの使用については取りやめる方向で動いている。
  
- ・ 事務局より次年度は DRLs2025の承認が行われるタイミングであるので、横浜で開催される JRC にて対面の総会開催を検討している旨が報告された。

細野代表より閉会の辞が述べられた。

以上